

【原 著】

理想の教師像についての調査研究 (2)
— 学校長等のインタビューから —

山根 文男 木多 功彦

A Survey Study of Images of Ideal Teachers (2): Interviews with Principals and Vice-principals

Fumio YAMANE , Katsuhiko KIDA

2013

岡山大学教師教育開発センター紀要 第3号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education
and Development, Okayama University, Vol.3, March 2013

原 著

理想の教師像についての調査研究(2)

— 学校長等のインタビューから —

山根 文男^{*1} 木多 功彦^{*2}

要旨：岡山市内の幼稚園・小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校の校長等に行った「理想の教師像」についてのインタビューにおける発言内容を分析し、新採用教員等若い教員に求める資質能力を明らかにした。また、学校長等の発言内容を中教審答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策」において示された資質能力に基づいて分類し、校種間での比較・検討を行った。その結果、全校種の学校長等が重要であると考えている資質能力は、「総合的な人間力」のうちの「豊かな人間性や社会性」及び「コミュニケーション力」であった。幼稚園長・小学校長の発言には、「教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力」に分類された言葉が多かったのに対し、中学校長・高等学校長の発言には、「専門職としての高度な知識・技能」に分類された言葉が多かった。

キーワード：求める教師像, 学校長, 資質能力, 新採用教員, インタビュー

※1 山根 文男 (岡山大学教師教育開発センター)

※2 木多 功彦 (就実中学校・就実高等学校)

I. はじめに

昨今の国際化、情報化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、複雑化・多様化する教育課題に対して的確にしかも迅速に対応できる教育実践力を有した人材の育成が急務である。これまでも教育職員養成審議会や中央教育審議会によって、教員の資質能力について様々な提言が示されてきた。

例えば、2012年(平成24年)の中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策」¹⁾では、これからの教員に求められる資質能力について、以下のように示されている。「(i) 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力」については、「使命感や責任感、教育的愛情」が示されている。「(ii) 専門職としての高度な知識・技能」については、さらに3つに分類され示されている。1点目の「教科や教職に関する高度な専門的知識」とは、「グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む」とされている。2点目の「新たな学びを展開できる実践的指導力」とは、「基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動

や課題探究型の学習、協働の学びなどをデザインできる指導力」とされている。3点目は「教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力」であった。「(iii) 総合的な人間力」については「豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力」の3つが示されている。

このように、教員の資質能力向上のための様々な制度改革や提言がなされている今、学校現場における様々な問題・課題を乗り越えるための教師の具体的な資質能力について、現場の実態から考えてみることは重要なことである。

II. 研究の経過と目的

学校現場では、いじめ・不登校・暴力行為等生徒指導上の課題への対応や特別支援教育の充実、さらには基礎的・基本的な知識・技能の習得やこれらを活用しての課題解決に必要な思考力・判断力・表現力等の育成やコミュニケーション力の育成が急務である。特に大量退職に伴う大量採用の時代、このような複雑かつ多様な課題に対応できる実践的指導力を有する新採用教員等若い教師が求められている。

教師の資質能力についての研究は、数多くの先行研究が見られるが、比較的新しいものでは、佐藤ら(2008)²⁾、中田(2009)³⁾、山根ら(2010)⁴⁾などがある。

【表1】 学校長等インタビュー一覧

学校種等	学校園名等	インタビュー者	実施日
幼稚園	岡山市立 A 幼稚園	園長	2011年 12月 26日
小学校	岡山市立 B 小学校	校長	2011年 12月 19日
小学校	岡山市立 C 小学校	校長	2012年 1月 10日
中学校	岡山市立 D 中学校	校長	2012年 1月 5日
中学校	岡山市立 E 中学校	校長	2012年 1月 23日
高等学校	岡山県立 F 高等学校(普通科)	校長	2012年 1月 10日
高等学校	岡山県立 G 高等学校(工業系専門科)	校長	2012年 1月 16日
特別支援学校	岡山大学教育学部附属特別支援学校	教頭	2012年 1月 11日

佐藤らは、兵庫県下の小学校教員 55 名、保護者 100 名を対象とする研究を行った。先行研究の質問項目を参考にしながら、文部科学省による教員に求められる資質能力の図式に基づき、独自の視点を盛り込んで 34 項目からなる質問項目を設定した。調査の結果、小学校教員が必要と考える小学校教員の資質能力として、「嘘やいじめに対して毅然とした態度をとる」「クラスを集団としてまとめていける」「子どもの関心を引き出しながら授業ができる」「自らの資質や能力を常に高めようとする」「子どもを引きつける表現力」「保護者とのコミュニケーションがとれる」「子どものしつけができる」などをあげた。保護者が必要と考える小学校教員の資質能力として、「子どもの関心を引き出しながら授業ができる」「子ども一人一人の個性を大切にすること」「子どもの目線に立ってコミュニケーションができる」「子どもが好きである」「嘘やいじめに対して毅然とした態度をとる」などをあげた。また教員(回答者)の年齢によって、取り上げる資質能力に違いがあることも指摘した。

中田は、東京都内公立小学校新規採用教諭(採用後 1～3 年目)42 名、都内公立小学校現職校長 44 名、都内公立小学校退職後 10 年以上の元校長 29 名の 3 群で計 115 名を対象とする研究を行った。基礎研究及び小学校長経験者からの聞き取りを基に、教師の専門性に係る基本的な要素を分析し、60 項目からなる質問項目を設定した。調査の結果、小学校教員に求められる資質能力は、年代によって捉え方が異なっていることを指摘した。新人教師群・現職校長群・元校長群の 7 割以上が「ぜひ身につけるべき」と回答した項目は、「熱意と使命感」「安定的な人間関係・集団経営」「授業力」「安全への配慮」であった。また、新人教師群の 7 割以上が「ぜひ身につけるべき」と

回答した項目の数は他の 2 群よりも多く、教職に就いたばかりの教員は非常にたくさんを身につける必要があると感じていることを明らかにした。

山根らは、教育実習の事前指導を受ける岡山大学教育学部 3 回生、教育学研究科学生、養護教諭特別科学生 281 名を対象とする研究を行った。岡山大学教育学部教員養成コア・カリキュラムにおいて育成を目指している 4 つの力、岡山市教育委員会が設定している教職員に求める資質能力、岡山県教育委員会が設定している教員像をもとに、20 項目からなる質問項目を設定した。調査の結果、「子どもとのコミュニケーション力」や「子どもの変化に気づく力」などについての評価値が高いことを明らかにした。また評価結果は、志望する学校種により異なることも指摘した。

以上の 3 つの先行研究において設定された質問項目は、20 項目、34 項目、60 項目と大きく異なっている。またこれらの項目は、具体的な行動やスキルなどについて問うものから、概念的なものについて問うものまで、その質問の水準も様々であった。教師に求める資質能力に関しては、必ずしも定義が明確でなく、一致した概念を共有することが非常に難しいといえる。

ところで本学では、教員志望の学生に対して毎年度 4 月に「教採自主講座」を開講し、その中の一コマとして「教師のあるべき姿」を考えさせている。本年度(平成 24 年度)の講座では、岡山市内の幼・小・中・高等学校の校長等に「理想の教師像」等についてのインタビューを行い、その様子を録画し、学生に視聴させた。学校現場の学校長等が新採用教員等若い教員に期待していることについて直接語っている姿を視聴させることにより、現場で真に求められ

ている教師像を改めて確認させておくことは、これからの教員養成のプロセスの中で、とても重要なファクターになると考えたからである。

本研究では、この録画における学校長等の発言内容を分析することにより、新採用教員等若い教師に求める資質能力を明らかにすることを目的とした。なお、「理想の教師像」についてのインタビューは、この他にも養護教諭（小学校，高等学校），保護者（元PTA会長），岡山県・岡山市教育委員会の人事担当者に対しても行ったが、今回の分析対象からは除外した。

Ⅲ. 方法

分析を行った学校種，学校園名，インタビュー者等の一覧を示したものが表1である。学校種によりインタビューの内容は若干の差異があるが，共通する項目は次の4項目である。この4項目についての学校長等の発言時間は10分程度であった。

- ①学校・地域・児童（生徒）の状況
- ②本校（園）のめざす子ども像
- ③本校（園）の求める教師像
- ④教職志望学生へのエール

本研究では「③本校（園）の求める教師像」を分析の対象とし，これに関する発言内容を省察した。

次に，発言内容や文中の言葉を，前出の中教審答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策」で示された資質能力に照らし合わせ，校種間の比較を行った。分析の手順を示したものが図1である。インタビューの内容をすべて文字に直しキーワードを含むセンテンスに区切り（図中<A>），各セ

ンテンスを内容にしたがって分類し（図中），それを資質能力と照合した（図中<C>）。

Ⅳ. 結果と考察

1. 幼稚園長の求める教師像

A幼稚園の園長に行ったインタビューを分析した結果，幼稚園の教師に求められる資質能力として，以下の内容があげられていた。

①情熱をもって関わることができること

子どもや保護者，周囲の人に誠意をもって関わることが一番大切である。

②誠意をもって関わることができること

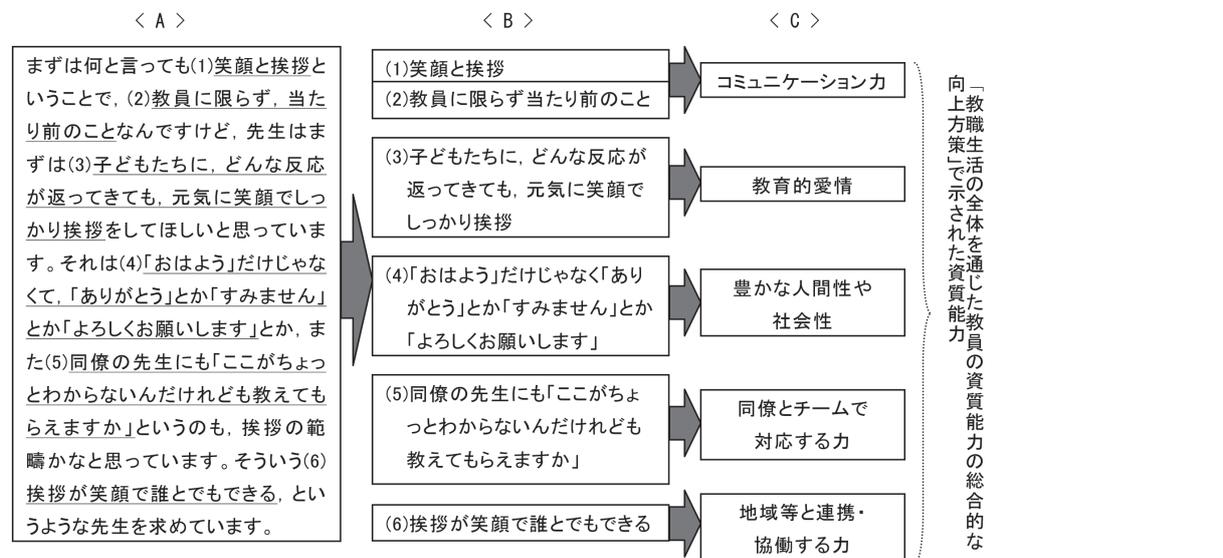
子どもと共に生活をしながら，教師の行動や言葉で子どもに知らせていく，いわゆる環境を通して行う教育が，幼稚園における特色の一つである。したがって，その教師の人となり，人間らしさがとても重要である。

③周りの人の話を謙虚に聞くことができること

自分の主張をしなければいけないが，謙虚に周りの人の言うことが聴けることも大切である。子どもの言葉にも耳を傾けて，子どもの言っていること，していることを謙虚に受け入れようとする気持ちがとても大切である。

④子どもと共に遊びを楽しむことができること

幼稚園は，子どもが子どもらしく自分の力を発揮して遊べる「遊びを保証する場」であり，教師は遊びの場を保証できる人でなければならない。教師は子どもと童心に返って遊べる気持ちをいつも持ち合わせてほしい。



【図1】 発言内容の分析手順（例：B小学校長の発言①）

2. 小学校長の求める教師像

B小学校及びC小学校の校長に行ったインタビューを分析した結果、小学校の教師に求められる資質能力として、以下の内容があげられていた。

< B小学校校長 >

①「笑顔」と「挨拶」ができること

子どもたちから、どんな反応が返ってきても、教師は元気に笑顔でしっかり挨拶をしてほしい。「おはよう」だけでなく、「ありがとう」「すみません」「よろしくお祈いします」、また同僚の教師にも「ここがちょっとわからないんだけど教えてもらえますか」というのも、挨拶の範疇であると考えます。

②「オンライン」ではなく「オフライン」を心がけること

最近は携帯電話やパソコンが普及しており、相手の顔を見ることなく、時間も選ばないで、いつでも自分が言いたいことを一方通行で伝えることができる。しかし教師の仕事は、そのようなオンライン上ではなく、顔を合わせて目と目を合わせて、自分の思いや考えを伝えるということを心がけたいといけな

③自分の考えをしっかりと持っていること

まずは「はい」と言って受け止めることが大切だが、それに加えて「でも、私はこう思いますが、どうでしょうか」というようなことも言えるくらい、自分の考えを持って動けるように磨いてほしい。目的や意義を考慮することができる力が、最後まで粘り強く子どもの教育に向かっていこうとするエネルギーになる。

④「自分のものさし」を進化させていくこと

それぞれ自分の価値観や考え方の「ものさし」を持っているが、「自分のものさし」と「他人のものさし」の両方を理解することが大切である。そして、「自分のものさし」をより一層磨いて進化させていくことにより、いろいろな人の思いやニーズに対応することができ、かゆいところに手が届く教師の動きにつながっていく。

⑤「鳥の目、虫の目」の両方を持つこと

地面の上をはっている青虫の目のように、小さいことを詳しく見る目が必要になる場合もあるが、時には空を飛んでいる鳥が地上を俯瞰して見るような目も、あわせて持つことが重要である。全体の中での自分の取り組みと細かいことを見極める目の両方を持つことにより、バランスがとれて成功につながりやすくなると思う。

< C小学校校長 >

①心身ともに健康であること

学校現場は本当に暑い中や寒い中で生活しているため、少々のことでへこたれるようでは働まらない。体が強いということは何よりの財産である。

②コミュニケーション能力を持っていること

子ども・保護者・地域の方それぞれにしっかりと思いを伝え、また思いを聴くというコミュニケーション能力を持っていること。そのためには、まず人の話がしっかりと聴けることが重要である。

③子どもが大好きであること

学校現場ではいろいろなことが起こるが、原点に立ち返るのは、子どもが好きかどうかである。子どもが好きであるということがなければ、この仕事は長続きしない。子どものため、子どもの立場に立って、子どものために何ができるかということを考えていかなければならない。

④子どもから教わることができること

教師は教えるという立場ではあるが、子どもから教わることもある。言葉だけではなく、いろいろな行動や何気ないひと言から教えられることも多く、いろいろなことを教わる力も必要である。

⑤チームの一員として動けること

小学校はチームで動くことが多いので、協調性や謙虚さ、また人が喜んでくれていることを自分も喜べる心も必要である。

⑥夢を持っていること

向上心や好奇心に加えて、いろいろな夢を持っていること。そしてその夢をしっかりと人に語れることが必要である。

⑦忍耐力を持ち、いつも笑顔で過ごせること

しっかりとした忍耐力を持って、笑顔でいつも過ごせること。子どもたちと笑顔で接することができる力も必要である。

⑧特別支援教育について勉強していること

特別支援ということについて、学校に勤める者はしっかりと勉強していなければ、子どものことが分からなくなることが多い。特別支援学校だけでなく通常の学校であっても、特別支援教育についてしっかりと勉強しておく必要がある。

3. 中学校長の求める教師像

D中学校及びE中学校の校長に行ったインタビューを分析した結果、中学校の教師に求められる資質能力として、以下の内容があげられていた。

< D中学校長 >

①感じる力をもっていること

思春期の子どもは、自分の気持ちを別の形で表すため、現象面だけを見て対応をするとトラブルになりやすい。その子が今やっていることから、訴えていることや内にあるものを感じ取り、なぜその子がそのような行動をとるのかを考える。これは問題行動の場合だけでなく、不登校の子ども、発達障がいを持つ子どもでも同様で、その子がどのような支援を求めているのかを考える。また子どもだけではなく、親が何を訴えようとしているのかということも感じ取れる。そのような感性を持ったような教師であることが大切である。

< E 中学校長 >

①他の人と一緒に活動することができること

学校は、一人ひとりが教えているようであっても、学校という組織があり、隣の教師や子どもたちと協調して一緒に活動しているため、他の人と一緒に活動することができる教師になってほしい。人の気持ちを押し量りながらやっていくことが重要である。

②何か特徴があること

その話をすると、授業や普段の生活とはまた違った深みがあるというような、魅力のある教師になってほしい。

③子どものことを大切にできること

今見えている子どもと、将来の子どもというのは同じではない。今の時期だから見えている部分や、悩みをもっている部分もあるので、長いスパンで見て大切に育てる。きめ細かい配慮をしながら、一人ひとりを大切にする、そのような教師になってほしい。

④誰にでも相談できること

気になったことを誰にでも相談できる人になってほしい。ハウレンソウ（報告・連絡・相談）により、自分だけでかかえこまないで、いろいろな人の意見を取り入れて、そして一緒に仕事ができる、そういう人になってほしい。

4. 高等学校長の求める教師像

F 高等学校及び G 高等学校の校長に行ったインタビューを分析した結果、高等学校の教師に求められる資質能力として、以下の内容があげられていた。

< F 高等学校長 >

①教科の指導力をもっていること

本校は意欲的な生徒が集まっている学校であるため、常日ごろから授業を非常に大切にしている。授業評価や授業公開も日常的に行っている。県内外から授業見学のための来客も多い。また、本校の特徴

の1つに、実力考査の問題をオリジナルで作成するということがある。これは非常に難しく、エネルギーの必要なことではある。しかし、問題を作成することは、教師の資質を高めるのに非常に効果的であると考えている。以上のことを踏まえて、教科の指導力、教科の深い勉強、あるいは、学問の楽しさ、それらをきちんと教えることができる力量を身につけてほしい。

②人間的に尊敬できること

「この先生には参った」「この先生は素晴らしい」ということを生徒に思わせて、初めて生徒も「この先生から学びたい」と思うのではないかと考える。人間性を高めるということや、人間としての魅力を高めるということが非常に重要である。

< G 高等学校長 >

①生徒と共に成長すること

②情熱があること

単に教えるだけでなく、子どもの成長を助け、それとともに自分自身も成長していくというような、情熱のある教師になってほしい。

5. 特別支援学校教頭の求める教師像

岡山大学教育学部附属特別支援学校の教頭に行ったインタビューを分析した結果、特別支援学校の教師に求められる資質能力として、以下の内容があげられていた。

①障がいの特性を理解すること

特別支援学校だけではなく、今は発達障がいの子どもたちがいろいろなところにいるので、障がいの特性に関する基礎的な知識を持ってほしい。

②その子の魅力をきちんとキャッチすること

障がいの知識が増えてくると、「自閉症だから視覚的な支援が必要だ」などと決めつけてしまう危険性もある。障がいの特性を理解しながらも、その子を丸ごと見て行ってほしい。性格、行動の特性、いろいろな良さ、背景にあることなどを含めて、その子の魅力をきちんとキャッチできるような教師になってほしい。

6. 発言内容の分析

「Ⅲ. 方法」で示した手順に従って、学校長等の発言を、中教審答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策」中で示された資質能力に照らし合わせものが表2である。

全校種に共通して、学校長等が重要であると考え

ている資質能力は、「総合的な人間力」のうちの「豊かな人間性や社会性」及び「コミュニケーション力」であった。「豊かな人間性や社会性」に関連する言葉として、「誠意」「謙虚さ」「忍耐力」「人間的に尊敬できること」「生徒ともに成長すること」「笑顔」などを採用した。「教育は人なり」という言葉の通り、学校長等は「人間的な魅力」を教師の資質能力として非常に重要であると考えている。

「コミュニケーション力」に関連する言葉として、「共に楽しむ」「目と目を合わせて」「チームの一員」「感じる力」「一緒に活動」などを採用した。「コミュニケーション力」は教職に限らず、一般の企業においても今最も必要とされる資質能力である⁹⁾。人間関係をつくるのが苦手な児童・生徒や、過度の要求を行う保護者に適切に対応するためにも、教師にはこれまで以上に「コミュニケーション力」が求められている。

また言葉自体はそれほど多くなかったが、全校種の学校長が何らかの形で「教育的愛情」について言及していた。やはり「子どもを愛すること」は、教職を目指す者にとっての原点であるといえる。

校種間を比較してみたところ、幼稚園長・小学校長の発言には、「教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力」に分類された言葉が多かった。一方、中学校長・高等学校長の発言には、「専門職としての高度な知識・技能」に分類された言葉が多かった。

注目すべき点として、中学校長が二人とも、「中学生特有の心理や行動の特性を十分に理解して対応すること」が必要であると発言していた。そのことを理解しておかないと「教師も子どももお互いに辛い思いをする」という言葉は、現場の実感としての重みを感じることができる。

V. おわりに

本研究の意義としては、次の二点があげられる。第一に、分析した発言内容が学校現場の生の声であるという点である。学校長等がインタビューで発言した内容は、先行研究で行われたような質問紙における記述や、調査研究を目的として語られた言葉ではない。今まさに学校園が求めている教師について、学校長等が学生に向かって率直に話した言葉である。その内容を分析することによって、より現実に即した「理想の教師像」に関わる資質能力の一端を明らかにすることができた。

第二に、幼稚園・小学校・中学校・高等学校及び特

別支援学校の全校種における現職の学校長等へのインタビューを分析対象としたこと自体の意義である。ほぼ同時期に同じ内容で行ったインタビューの内容を、現在最も新しく示されている「教師の資質能力」と照らし合わせて分類することによって、発言内容を校種間でも比較・検討することができた。これにより、学校種の特性と求める教師像の差異についても明らかにすることができた。ただし、この分析の多くは著者らの主観に基づくものであるため、より信頼性と妥当性のある分類・分析の方法を考えていく必要がある。

今後の課題としては、本研究で明らかにした教師に必要な資質能力を、教職志望学生にどのようにして身につけさせるかという点があげられる。これまでに見てきたように、教師に必要な資質能力は多岐に渡っている。これらすべて資質能力を一人ひとりの新指向教育等、若い教師が身につけることは、現実的にはかなり難しいといわざるを得ない。むしろ学校現場の中では「授業の達人」「生徒指導の達人」「学級経営の達人」など、各教師がそれぞれの個性・特性を発揮することによって機能的・補完的・組織的に動いているのである。また資質能力とは固定的なものではなく、校内外での研修や自己研鑽、様々な社会体験等を通して変化し、成長していくものである。これらを踏まえて、教師として必要な資質能力についての基礎的・基本的な知識・技能等を身につけるとともに、常に自ら学び成長することができる、個性豊かな教師を育てるためのプログラムやカリキュラムを開発していく必要がある。

表2 教師に求められる資質能力の分類

「教職生活の全体を通じた 教員の資質能力の総合的 な向上方策」で示された 資質能力 学校長等へのインタビュー により示された、教師に求め られる資質能力		教職に対する 責任感、探究力、 教職生活全体を 通じて自主的に 学び続ける力			専門職としての 高度な知識・技能			総合的な人間力			
		使 命 感	責 任 感	教 育 的 愛 情	高 度 な 専 門 的 知 識	実 践 的 指 導 力	新 た な 学 び を 展 開 で き る 力	教 科 指 導 ・ 生 徒 指 導 ・ 学 級 経 営 等 を 的 確 に 実 践 で き る 力	豊 か な 人 間 性 や 社 会 性	コ ミュ ニ ケー シ ョ ン 力	同 僚 と チ ーム で 対 応 す る 力
A 幼 稚 園 長	①情熱をもって関わることができること	●	●	●					●		
	②誠意をもって関わることができること	●	●	●				●	●		●
	③周りの人の話を謙虚に聞くことができること							●	●	●	●
	④子どもと共に遊びを楽しむことができること	●	●	●		●		●	●		
B 小 学 校 長	①「笑顔」と「あいさつ」ができること			●				●	●	●	●
	②「オンライン」ではなく「オフライン」を心がけること							●	●	●	●
	③自分の考えをしっかりと持っていること		●		●	●	●				
	④「自分のものさし」を進化させていくこと					●	●	●	●	●	●
	⑤「鳥の目、虫の目」の両方を持つこと				●	●	●				
C 小 学 校 長	①心身ともに健康であること※1										
	②コミュニケーション能力を持っていること						●	●	●	●	●
	③子どもが大好きであること	●	●	●				●			
	④チームの一員として動けること		●					●	●	●	
	⑤夢を持っていること	●				●		●			
	⑥忍耐力を持ち、いつも笑顔で過ごせること	●		●				●	●		●
	⑦特別支援教育について勉強していること	●	●	●	●	●	●				
校D 長 中 学	①感じる力をもっていること			●				●	●	●	●
E 中 学 校 長	①他の人と一緒に活動することができること							●	●	●	●
	②何か特徴があること				●	●	●	●			
	③子どものことを大切にできること	●	●	●				●			
	④誰にでも相談できること								●	●	●
学F 校 高 長 等	①教科の指導力をもっていること	●	●		●	●	●				
	②人間的に尊敬できること			●	●	●	●	●			
学G 校 高 長 等	①生徒と共に成長すること					●	●	●			
	②情熱があること	●	●	●				●			
学特 校別 教支 頭長	①障がいの特性を理解すること	●	●	●	●	●	●				
	②その子の魅力をきちんとキャッチすること			●				●	●	●	●

※1 「心身ともに健康であること」については、資質能力として分類することにはなじまいため、表中には記していない。

<参考・引用文献>

- 1) 中央教育審議会答申,「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策」(2012)
- 2) 佐藤広志,進藤正洋,田上由雄,他,教師の資質能力に関する調査ー小学校予備調査の結果分析ー,教育総合研究叢書,1(2008),63-93
- 3) 中田正弘,小学校教師が求める資質能力に関する考察ー3世代教師の意識の共通と差異をもとにー,帝京大学文学部教育学科紀要,34(2009),21-29
- 4) 山根文男,古市裕一,木多功彦,理想の教師像についての調査研究(1)ー大学生の考える理想の教師像ー,岡山大学教育実践総合センター紀要,第10巻(2010),63-70
- 5) 学校法人河合塾,「経済産業省委託事業 平成22年度産業技術人材育成支援事業 体系的な「社会人基礎力」育成・評価モデルに関する調査・研究実施報告書」,(2010)

Title : A Survey Study of Images of Ideal Teachers (2): Interviews with Principals and Vice-principals

Fumio YAMANE (Center for Teacher Education and Development, Okayama University)

Katsuhiko KIDA (Shujitsu junior high school, Shujitsu high school)

Keywords: images of ideal teachers, principals, traits and abilities, newly employed teachers, interviews
